

アレルギー事情 研究者らが紹介

中央でフォーラム

化学物質が子どもの健康に及ぼす影響を調べる環境省の「エコチル調査」で、山梨と長野の調査拠点となる甲信ユニットセンターは5日、中央市の山梨大玉穂キャンパスで「エコチルやまなしフォーラム2011秋」を開いた。

同大医学部免疫学講座

教授の中尾篤人さんが「アレルギーとは何か?」、同小児科学講座助教の杉山剛さんが「スギ花粉王国山梨に育つ子どもたちのアレルギー事情ー山梨県は花粉症有病率日本一!」と題して講演した。

杉山さんはぜんそく患者が少ない一方で、花粉症や口腔アレルギーの患者が多いといった山梨のアレルギーに関する特徴を挙げ、「この山梨の謎を解くことがアレルギーに関する大発見につながるかもしれない。それにはより多くの方に、エコチルに参加してもらおう」とがはじめの一步」と話した。

県内のエコチル調査の妊婦の募集は甲府、中央、山梨、甲州、富士吉田の5市で実施していて、3年間で4488人の参加が目標。10月31日現在、1028人が参加し、264人が出産している。



クリスマスイルミネーションの点灯セレモニーがニュースの話題になる季節になりました。エコチル元年となった今年もあとひと月余り…。あっという間に過ぎた感じがする一方で、参加者のリクルート開始日に、マスコミから取材を受けたことがはるか昔のことのような気がします…。それだけ充実した毎日だったということでしょうか。エコチル元年を有終の美で飾れるよう、引き続き、ご協力をお願いいたします。

「フォーラム 2011 秋」を開催

11月5日（土）、山梨大学医学部看護学科8109講義室で、「エコチルやまなしフォーラム2011秋」を開催しました。「子どものアレルギーについて考えよう」をテーマに、免疫学講座教授の中尾篤人先生が「アレルギーとは何か？」、また小児科学講座助教の杉山剛先生が「スギ花粉王国に育つ子どもたちのアレルギー事情～山梨県は花粉症有病率日本一」と題して講演してくださいました。

先生方のお話はとても分かりやすく、エコチル調査に参加している妊婦さんたちにも参考にさせていただきたい内容だと思

いました。次回からは、エコチル調査にご協力いただいている妊婦さんたちが気軽に参加できるよう、託児スペースを設けるなどのサービス向上も考えたいと思います。



参加者と意見交換する中尾篤人先生（右）と杉山剛先生 二山梨大学（11月5日）

山梨県内の参加者が1,000人を突破しました！

11月に入り、エコチル調査のデータシステムに登録された参加妊婦さんがいよいよ1,000人の大台を超えました。関係各機関の皆様の温かいご支援に、あらためまして心より感謝申し上げます。

1ヶ月健診時の調査が終了し、ユニットセンターに回収された一人ひとりの記録を整理していると、RCさんたちの走り書きや貼り付けられたままの付箋をたくさん目にします。煩雑な調査業務が滞りなく進むよう、毎日気を張って、さまざまな工夫を重ねながら取り組んでいることが伝わってきます。

リクルートが始まってからそろそろ10カ月。体調管理に配慮しつつ、妊婦さんに寄り添いながら、調査の遂行に励んでいきたいと思

【エコチル調査に参加同意して下さった妊婦さんの数（データ入力件数 11月21日現在）】

山梨大学	信州大学	合計
1,090名	526名	1,616名